

跡見学園女子大学
人文学フォーラム

執筆者紹介 (五十音順・敬称略)

- 石田 信一 *ISHIDA Shinichi* (助教授・西洋文化史)
伊藤 穰 *ITO Jo* (専任講師・情報科学)
稲賀 繁美 *INAGA Shigemi* (国際日本文化研究センター助教授・比較文化、文化交流史)
岩本 憲司 *IWAMOTO Kenji* (教授・中国哲学)
植田 恭代 *UETA Yasuyo* (非常勤講師・日本文学)
臼田 紘 *USUDA Hiroshi* (教授・フランス語、フランス文学)
神山 伸弘 *KAMIYAMA Nobuhiro* (教授・西洋思想史)
川平ひとし *KAWAHIRA Hitoshi* (教授・和歌文学、中世文学)
紀井 利臣 *KII Toshiomi* (助教授・絵画技法)
倉石あつ子 *KURAIISHI Atsuko* (助教授・民俗学)
北澤 憲昭 *KITAZAWA Noriaki* (教授・日本近現代美術史)
福田 立明 *FUKUDA Tatsuaki* (教授・英語、英米文学)
福田 博同 *FUKUDA Hiroatsu* (助教授・情報科学)
村越 行雄 *MURAKOSHI Yukio* (教授・英語、言語哲学)
山口 榮 *YAMAGUCHI Sakae* (教授・中国近代思想史)

編集後記

今年の芥川賞は十九歳と二十歳の、女性作家に決定した。そのニュースを伝えた新聞の別の欄に、若い女性の受賞が意外なことのように取りざたされるのはおかしい、いま文学の受け手はそういう人たちなのだから、という意味の論評が載っていた。わたしたちが知らぬ間に固定観念化している一方で、大きな変化が進行している事例は数限りない。それにしても最近の出来事は、ふだん当たり前に思っている日常的な光景をとつぜん一変させてしまう。SARS、BSE、鳥インフルエンザ、そして遠くて近いイラクの混乱と北朝鮮……。われらはここで、ただ古典の不変性を求めてたたくのみ？ (I)

若い人たちが本を読まなくなったとの嘆きをよく聞くが、まったく同感である。だが、彼らが作文したり、それを読んだりしなくなったわけではないようだ。ケイタイという玩具に向かつて、むしろ頻繁にそれをしていくからだ。あの絵交じりのものを、老生は文章とはよばないが。今回、同僚諸氏の投稿原稿を読んできて、十年以上昔の、大学が大学であると実感できた時代に戻ったような錯覚に陥った。本誌の読者諸氏が、ひとときにせよ、古きよき時代の大学に憩う気分を味わっていただけたら、と願いつつ本誌をお届けする。(K)

久しぶりの学内雑誌編集担当。予想以上にスムーズな進行。今回の『フォーラム』が第2号であったためか。新しい雑誌を作り上げた創刊号編集担当者の苦労は想像に難くない。感謝。もちろん、原稿依頼を快諾し、すみやかに原稿を提出して下さった執筆者の方々への貢献大。とりわけ、特集「新『古典』の研究」に寄稿して下さい下さった方々に感謝。直接の編集担当ではないにもかかわらず、特集テーマの選定など、忙しい中で多々協力して下さい下さった北澤学術委員長に感謝。多くの方々の協力のおかげでできあがりしました。(S)